

子どもの本だな 50

このページは子どもたちにすすめたい本をとりあげています。本を選ぶときの参考にしてください。

### ラチとらいおん

マレーク・ベロニカ ぶん・え  
とくなが やすとも やく (福音館書店)

ラチは、世界中で一番弱虫でした。犬を見れば逃げだし、暗い部屋にはこわくて入れません。友だちもこわくて仲間に入れません。

あるとき、ラチのもとに小さな赤いライオンがやってきました。ライオンは片手で椅子を持ち上げ、ラチを押し倒せるほど力持ちです。ラチは強くなるために、毎朝ライオンと体操を始めました。ライオンがいっしょなら、犬も暗い部屋もこわくありません。そして、とうとう相撲でライオンを負かすことができました。ラチがポケットにライオンを入れて出かけると、友だちがしょんぼりしていました。ボールをのっぼに取られたのです。ラチはのっぼを追いかけてきました。

ボールを取り返したあと、ポケットの中には、ライオンのかわりにりんごが入っていました。オレンジ、緑、黄色を効かせた明るい絵で、心も体も強くなっていくラチを描いています。読んでもらえば4歳から。(竹内)

### あたまをつかった小さなおばあさん

ホープ・ニューウェル 作 松岡 享子 訳  
山脇 百合子 画 (福音館書店)

小さなおばあさんは大変びんぼうでしたが、頭を使うことにかけてはたいした人物でした。おばあさんの赤いフランネルの毛布は古くなり穴だらけになりました。おばあさんは羽根布団を作ろうとガチョウを飼い始めます。冬がきて羽根をとろうとした時、羽根がなくなったらガチョウはさぞ寒くなるだろうと心配になりました。毛布の穴を切り取ったらまだ使えると思いましたが、穴が大きくなっただけでした。そこで考えて考えて、いいことを思いつきました。穴のあいた毛布でガチョウたちに暖かい上着を作り、おばあさんは羽根を取って暖かい布団を作ることができました。他にも戸棚を荒らすネズミを飼ってしまう話など8編がはいっています。

親しみあるユーモアたっぷりの挿絵はあたたかく、どんなことでも持ち前の知恵で切り抜けるおばあさんが巻き起こす出来事に、おかしみと満足をおぼえます。読んでもらえば6歳から楽しめます。(西村)

12月	1月	12・1月の移動図書館 (いずれも木曜日です)				
7日	11日	塚森 地域内 10:30~10:50	沖代 地域内 11:00~11:20	福地(三反長) 地域内 14:30~14:50	米田 公会堂 15:00~15:20	竹広南 公民館 15:30~15:50
14日	18日			原池団地 公民館 15:00~15:20	山田 掲示板前 15:30~15:50	原 太田東地区農村 交流センター 16:00~16:30
21日	25日	広坂 公民館 10:30~10:50	上太田 公民館 11:00~11:20		太子 ニュータウン 公民館 15:30~15:50	吉福 公民館 16:00~16:30

### 読書講演会のお知らせ

「心に一粒の種をまく  
子どもがよい物語をもつ意味」  
講師:小寺 啓章さん  
(元太子町立図書館長)  
日時: 2月4日(日)  
14時~16時  
会場:あすかホール・中ホール  
対象:一般(200名)  
申込:図書館窓口または電話で

『ゴッホの耳 天才画家 最大の謎』 バーナデッド・マーフィー著

山田 美明 訳 早川書房 359頁 2017年9月刊 2,200円 (請求記号) 723.3

1888年12月23日、画家フィンセント・ファン・ゴッホは自身の手で左耳を切り落とした。著者はこの衝撃的な事件の謎に迫り、新たな真実をつきとめる。

この事件をいつかきちんと理解したいと思っていた著者は、病気で休職中に、軽い気持ちでゴッホの耳の謎解きを始めました。まず家の美術書やインターネットで調べると、切り取ったのは耳のどの部分なのか、耳を渡した娼婦とは誰なのか、アルルに来て自殺するまでの2年半の間に一体何があったのか、どれも確固たる証拠がなく、調べれば調べるほど疑問が増えていった。そこで著者はゴッホ研究者の見解を再検討し、アルルでのゴッホの生活の全体像を一つから作り上げることにした。歴史の古いアルルの膨大な公文書の中から、1888年前後のありとあらゆる資料をかき集め、さらに1万5千人以上に及ぶ市民のデータベースを作成した。こうして集めた資料と、ゴッホの書簡集や新聞記事などを照らし合わせていくと、耳を渡されたのは、娼婦ではなく、家族のために娼館の小間使いとして働く女性であること、そしてゴッホを治療したレー医師本人直筆の耳のスケッチが存在することが分かった。図書館の奥深くで見つけ出されたスケッチには、左耳のほぼ全体が切り落とされた様子が描かれていた。

著者は、7年もの歳月を費やし、執念と探究心と専門家の盲点をつく素人ならではの視点で、埋もれていた真実をつきとめた。ゴッホの過ごしたアルルでの2年半を中心にして、最愛の弟テオとの手紙、画家仲間との交友、ゴーギャンとの複雑な共同生活、アルルで出会った友たち、そして自殺するまでのゴッホの心の葛藤が丁寧に描かれている。そこには、小説『炎のゴッホ』に描かれた、酒と女に溺れ精神に異常を来した天才画家というゴッホ像はどこにもなく、繊細で優しく、精神疾患の発作と戦いながら描き続けるゴッホがそこにいた。まるで知らなかったゴッホを心から尊敬し、ゴッホの描いた人々や風景に面識があったかのような親しみを覚えるようになったと著者はいう。私もこれからゴッホの絵を見る目が変わるだろう。『ひまわり』『星月夜』など、ゴッホの代表作と呼ばれる作品の多くがこの晩年に生み出されている。

(池之上)

12月の開館日

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

1月の開館日

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

クリスマスおはなしの時間

12月23日(土)

- ・11時～(4歳から小学2年生)
- ・11時30分～(小学3年生以上)
- \*保護者の方も参加できます。

- \*カレンダーの×印は休館
- \*■は館内整理日。  
返却のみ受付(10～17時)
- \*開館時間は、  
10時から18時まで。  
金曜日は20時まで開館。

地下水

夏休み前、児童室に段ボールで作った恐竜や昆虫、キリンやゾウ、カバを飾り、作り方の本を展示した。幼い子どもはカブトムシを動かして、両手に恐竜を持って戦わせた。夏休みの工作に悩んでいたお母さん方は、見近な材料で作れる手軽さを気に入って、本を借りていかれた。

9月、恐竜を作った、カブトムシを提出した、本が役に立ったという声が届いた。子どもたちに工作を持って来てもらって飾りつけた。スウェーデンの伝統的な細工のモビール、木工の椅子、フェルトの小物入れ、段ボールのカブトムシにトリケラトプス、紙粘土のタガメ、ペンギンに昆虫たち。中学生の家の模型も加わった。大迫力のもの、愛らしいもの、どの作品も生き生きとして、本を参考にしたものもそうでないものも、創意にあふれ、想像力を羽ばたかせ夢中で手を動かす子どもたちの姿が思い浮かんだ。大人も子どもも、ガラスケースに顔をすりつけるようにして、のぞきこんでいた。

この秋、京都の国宝展で火焔土器と土偶を見た。現代の私たちには思いもよらぬ自由で力強い縄文の人たちの造形に、子どもたちの作品が重なり、宝物を見つけたように嬉しかった。

(片木)

